

まさには

「アハブ家に語られた言葉」

「だから、知っておくがよい。アハブの家に対して語られた主の言葉は、一つも地に落ちることはない。僕エリヤを通して語られたことを行われたのは、主なのだ。」

(列王記下 第10章10節・旧約聖書581頁)

はじめに

列王記から、悪王の代名詞となった「ヤロブアムの道」に進んでいったのはなぜかを見てきました。ヤロブアムは「能力」を、オムリは「力」を誇り、神に背を向け、祝福を失いました。それだけでなく、オムリの家は罪にまみれ、王国の隅々に悪影響を及ぼすのです。ミカはアハブの罪を指摘して言いました。「人よ、何が善であるのか。そして、主は何をあなたに求めておられるか。それは公正を行い、慈しみを愛し、へりくだって、あなたの神と共に歩むことである」(ミカ 6:8)。今日は、アハブ家の罪に神がどのように扱われたかを見ることにします。

オムリ以降

オムリは神への反逆の象徴とも言えるサマリアを建設、軍事政権を確立します。その子アハブは隣国シドンの王でバアルの祭司長エトバアル娘イゼベルをめとるのですが、このイゼベルはアハブをも押さえつけて国を動かします。サマリアにバアルの神殿が建ち、礼拝を強要、逆らった者は殺されていきました。アハブはユダの王ヨシャファトにすり寄り、その子ヨラムに自分の娘アタルヤを嫁がせます。そしてこのヨラム、その子アハズヤが死ぬと、女王として6年間、ユダを治めるのです。つまり、北、南ともイゼベルが持ち込んだバアルを拝み、神の王国とは真逆の、偽善と罪悪に満ちた国に落ちていきました。ガラテヤの信徒の手紙に、神に敵対して歩むことで「肉の行いは明白です。淫行、汚れ、放蕩、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、嫉妬、

怒り、利己心、分裂、分派、妬み、泥酔、馬鹿騒ぎ、その他このたぐいのもの」が生み出されると記されています(5:19～)、まさにこの時代がそのピークでした。

神の裁き

神は罪を見逃しにはなさいません。神をたたえるべき国を汚したアハブ家に対し、預言者エリヤ、エリシャを通して「その罪を一掃する」と宣言され、同時に、アハブ家を絶つためにイスラエルの将軍だったイエフを選びます。彼は、王となっていたアハブの子ヨラムを打ち、アハブの妻イゼベル、70人のアハブの子、そしてバアルの大祭をするとして集まってきたバアルのすべての祭司、預言者を殺し、神殿を破壊、肥溜めにします(列下 10:1～)。神の罪に対する徹底した裁きが行われたのでした。

私たちの家は

もう一度皆さんに問います。あなたは、そしてあなたの家族は神からの祝福を受けなければなりません。ガラテヤの手紙では、「霊の結ぶ実は、愛、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制であり」私たちは神によって生きているのだから、神の祝福をいただいて進もうではないかと、呼びかけられています。私たちの家はアハブ家になってはなりません。神に従い、神を愛し、神の前にへりくだっていくことで、私たちの家は祝福され、御霊の実で満たされていくのです。

【礼拝説教はスマホでも視聴できます】
右記のQRコードを読み取ってアクセスしてください。



今週の祈り

『「だから、知っておくがよい。アハブの家に対して語られた主の言葉は、一つも地に落ちることはない。僕エリヤを通して語られたことを行われたのは、主なのだ。』」(列王記下 10:10)

「肉の行いは明白です。淫行、汚れ、放蕩、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、嫉妬、怒り、利己心、分裂、分派、妬み、泥酔、馬鹿騒ぎ、その他このたぐいのものです。以前も言ったように、ここでも前もって言いますが、このようなことを行う者は、神の国を受け継ぐことはありません。これに対し、霊の結ぶ実は、



愛、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制であり、これらを否定する律法はありません。」(ミカ書 5:19～23)

オムリが残した負の遺産はアハブに引き継がれ、アハブはさらに深い罪を犯しました。神の王国を偶像の国にし、しかもバアル信仰を強制させたのです。そのことで神からの祝福は北王国から去って行きました。罪に対する神の裁きを軽視し、侮った態度をとっていたことで、神の裁きはくだりました。どうかアハブの家を教訓にし、神に従うことを決意させてください。御名によってお祈りいたします。アーメン。

深読みにチャレンジ!

箴言 (67) 第3章29節

*三つの違う訳を読み比べてみましょう。

◎協会共同訳 「友に対して悪意を耕すな 彼はあなたのそばで安らかに住んでいるのだから。」

◎口語訳 「あなたの隣り人がかたわらに安らかに住んでいる時、これに向かって、悪を計ってはならない。」

◎新改訳 「あなたの隣人が、あなたのそばで安心して住んでいるとき、その人に、悪をたくらんではならない」

「悪意を耕す」

父親がよりよい人間関係を築き上げるための知恵を授けようとしている箇所です。

まず「自分にしてもらいたいことは、率先して相手にしてあげること」、次に「自分に余裕があるならば、人に対して施すことも惜しんではない」でした。次に語られたのは、「隣人に対して干渉し過ぎない」ことです。

口語訳、新改訳では「悪を企む」となっていますが、協会共同訳では「悪意を耕す」と訳されています。たとえば「エサウは、カナンの娘たちが父のイサクの気に入らないということを知った」(創世記 28:8)の「気に入らない」、「私はお前たちをひどい目に遭わせることもできるが」(創世記 31:29)の「ひどい目に遭わせる」が同じ語です。たまにしか合わない人にはこのよ

【神からの知恵によって生きる】

箴言はソロモンが語った知恵の言葉を中心に構成されています。31章から構成されていますが、あたかも短編を読んでいるかのように、種々雑多な知恵の言葉が連なっています。ソロモンが思いつくままに語った言葉を、そのまま筆記したのではないかと思えるほどです。

この書このような性格上、まとめて解説するのが難しいため、この欄で、一つ一つの言葉をじっくり味わいたいと思います。箴言から得る知恵によって、深みのある生き方を学び、よりよい人間関係を築かせていただきたいと思います。

- 1 父から子へ・受け継がれるべき知恵 (1:1～9:18)
- 2 生活の処方箋・知っておくべき知恵 (10:1～22:16)
- 3 先人からの知恵 (22:17～31:31)
 - a 知恵ある人の言葉 (22:17～24:34)
 - b ソロモンの言葉 (25:1～29:27)
 - c アゲルの言葉 (30:1～33)
 - d レムエルの言葉 (31:1～31)

うな感情が生まれてはきません。友であるからこそ、その行為に対し「気に入らない」ことが起こるものです。ところが、そのことを「謝る」どころか、友人は気にも留めていない様子。自分の心の中ではそれを受け流すことができず、そればかりか根に持ってしまう、その出来事を思い出すたびその友人への怒りや憎しみが増してくる。そのような状態を「耕す」としたのでしょうか。「怒りを解き、憤りを捨てよ。怒りを燃やすな。それはただ悪を行うに至る」(詩編 37:8)。私たちが滅びないためでもある忠告の言葉です。

聖書日課

毎朝、決められた時間に聖書を読み、お祈りをするのはクリスチャンの生命線です。この聖書日課を使って心の糧を欠かさないようにしましょう。そのために最低でも15分間を神との交わりのために聖別してください。

朝にどうしても時間のとれない方は、昼休みでも就寝前でもかまいません。ぜひ、実行してください。

【祈りの時の持ち方(例)】

- ①まず黙想し、次に、自分の心を神に向けるために賛美する。賛美曲を歌えない場合は、歌詞を味わう。
- ②御言葉を読み、自分へのメッセージが何かをさぐる。例えば、神の恵み、告白すべき罪、従うべき命令、ならうべき模範など。
- ③自分が神のメッセージにどうこたえるのかを祈る。感謝や信頼の表明、悔い改め、服従、献身など。
- ④自分の祈りだけでなく、できるだけ「祈祷課題」も祈る。

【月曜日】 ◆今週のすべての集会在祝福され、救いにつながるように祈りましょう。

サムエル記上第1章27節「私はこの子を授かるようにと祈り、主は私が願ったことをかなえてくださいました。」◆ハンナは祈った。私たちに深い悲しみが襲ってきた時、そのことをもって祈りの機会ととらえるべきである。そして徹底的に祈りたい。祈りの言葉も出てこないだろう。ハンナもそうだった。祈りの言葉も出ないのだが、主の前から離れたくなかったのである。深い悲しみを御前に注いだ。激しく泣いて、しかし祈った。神の前に自分の心を注ぎだした結果、神の答えを知る。主に聞かれたとの体験は、私たちの祈りの姿勢を強くすることにもなる

●賛美 / 374 ●祈祷課題

◆昨日、礼拝に集えなかった人が恵みからもれないように。
◆この教会も世界宣教の一拠点であることを自覚し、重荷を持って祈れるように。特に共産圏、イスラム圏伝道が進むように。迫害にある宣教師のために。現地語聖書の翻訳が進むように。異端からの救出が進むように。台湾活水泉の活動のために。

【火曜日】 ◆教会のビジョンのため、将来の働きが祝福されるように祈りましょう。

サムエル記上第2章26節「一方、少年サムエルはすくすくと育ち、主にも人々にも喜ばれる者となった。」◆祭司エリはハンナが祈っているのを見て、「酔っている」と思った。それだけエリの霊性も落ちていたのだろうか。エリの子たちはほとんどもない悪事を働いていた。神に仕える者たちがこのレベルなのだから、「主の言葉はまれで、黙示も常ではなかった」(3:1)との記述もわかる。私たちの時代もそうだ。その中で、「神に愛され、人々に愛される」ように子どもたちを育てなければならない。そのためにハンナの祈りに学ばなければならない。

●賛美 / 375 ●祈祷課題

◆日本福音同盟、日本福音連盟、聖化交友会、キリスト教各出版社、EHC、ケズィック、太平洋放送協会、F E B C、キリスト者学生会、日本国際飢餓対策機構、ワールド・ビジョン、いのちの水計画、総動員伝道、Hi-b.a.、日本国際ギデオン協会(聖書配布)、新生宣教団等の働きとスタッフのため。

【水曜日】 ◆宣教福祉事業が祝福されるように祈りましょう。

サムエル記上第3章4節「主がサムエルを呼ぶと、サムエルは、『ここにいます』と言って、」◆サムエルとの名は「主は(エリ)聞いて(シヤム)くださる」との意味を持つ。神の声を聞く前に、サムエルは、その名の通り、神は私の祈りを聞いてくださるお方だとの信仰を持っていたのだと思う。「自分が祈っても神さまは聞いてくださらない」といった姿勢であれば、「そんな自分に神さまが語られるはずはない」と思ってしまう。神は私の祈りを聞こうとしておられる。まずそこから、自分の祈りの姿勢を確かめてみよう。

●賛美 / 376 ●祈祷課題

◆新会堂が与えられるように祈りましょう。①バス通りに面した場所に良い土地が与えられるように②十分な資金が与えられるように③早期に建てられるように
◆宗教法人を取得できるように
◆伝道の拠点が祝福され、用いられるように。(まきば、小山宮下事務所、向陽町)

【木曜日】 ◆弱っている方々、病にある方々のために祈りましょう。

サムエル記上第4章18節「エリは…首を折って死んだ。年老いており、かつ太っていたからである。彼は四十年間イスラエルを治めた。」◆エリは40年を士師、祭司として活動したが、最後は墮落を連想させる死に方のように感じる。彼の時代は「神の言葉」を聞くことも困難になっていた。また彼の2人の息子たちが犯した罪は非常に重く、そのため神の箱も奪われてしまった。私たちはエリのように召されている。しかしこのような「暗黒」を作ってはならない。この時代に幕をおろし、信仰復興を遂げたサムエルのように、「神の聞くこと」から信仰を点検したい。

●賛美／377 ●祈禱課題
◆教会学校の成長と救い、青年の結婚、教会員の信仰の成長と家族の救いのため。
◆教会ビジョンのため（社会宣教事業、伝道所の開設、保養施設建設、会堂建築、納骨堂、宗教法人格取得、学生寮、高齢者住宅）、教会員から伝道者や献身者が与えられるよう、教会会計の祝福

【金曜日】 ◆礼拝出席平均が50名以上となり、受洗者が年間3名以上与えられるように祈りましょう。

サムエル記上第5章11節「『イスラエルの神の箱を送り返し、元の場所に戻ってもらおう。そうすれば、私と私の民は殺されはしないだろう。』町全体が死の恐怖に襲われ、神の手がそこに重くのしかかっていたからである。」◆ペリシテはイスラエルの至宝と理解し、神の箱を奪った。イスラエルはあわてたが、動揺したところで奪い返す力もない。だが、神は自らでその威厳をあらわされるのである。ペリシテ人の上にわざわいが臨み、とうとう頭を下げてでも「返そう」となった。神は私たちのために戦われる。そして私たちが寝ている間に、私たちを勝利に導く。

●賛美／378 ●祈禱課題
◆この教会に聖霊の著しい働きがもたらされ、リバイバルが起こるように。常に新来会者が与えられ、求道者、受洗希望者がもたらされて、教勢が祝福されるように。
◆土屋牧師、淳子師（牧師一家）、思乃扶師、石出師の働きのために。
◆老齢の方、病の中にある方々のいやしのために。

【土曜日】 ◆聖日に備え、健康が保たれ、出席しやすい天候が与えられるように祈りましょう。

サムエル記上第6章20節「一体誰がこの聖なる神、主の前に立つことができようか。我々から離れてもらうには、誰のもとに運んだらよいだろうか。」◆いつもと変わらない関係は、なれ合いを生み出す。「撃たれた」理由もそれだ。神との関係にあって、なれ合いは禁物である。つまり、それは、神に対する畏敬の念を常に持つことであり、「聖なる方」であるとの認識を強く持つことでもある。そうでなければ神を人間以下のように扱ったり、神のわざを侮ることが起こってくる。「天のお父さま」と呼ぶことはできるが、しかし、私たちの立場を理解すべきだ。

●賛美／379 ●祈禱課題
◆子どもを含め、すべての人が礼拝を守れるように。あらゆる集会が祝福され、参加者が御言葉によって取り扱われるように。奉仕者が恵まれてご用にあたれるように。
◆ホームページが用いられるように。また礼拝動画が用いられるように。教会から出している週報や印刷物が用いられるように。

【日曜日】 ◆新来会者が起こされるように祈りましょう。

サムエル記上第7章2節「イスラエルの家は皆、主を慕い求めるようになっていた。」◆何か問題が起こると、「神は私たちを見放したのか、見捨てたのか」と安易に思う人がいる。問題を引き起こした原因は自分にあるのだが、それをすっかり忘れて、神にのみ文句を言う。神は寛容な方で、私たちの叫びを聞き、すぐにも私たちを助けてくださるのだが、しかし、叫ぶ前に、自分自身に問おう。あなたは「神々とアシュトレト」をそのままにしているか。まず自分の心にある「バルとアシュトレトを取り除き、」ただ主のみ仕えよ。

●賛美／380 ●祈禱課題
◆この教会に連なるすべての方々が聖日礼拝を厳守できるように。聖書通読を続けられるように。御言葉を味わえるように。祈りに励めるように。ささげる恵みにあずかれるように。積極的に神さまから受けた恵みを語れるように。
◆受験生、就職活動者、試練にある者のために。



おやこでせいしよ

●きょうのせいしよ

【ルツ 4：1～22】

「ダビデのけいず」

(ルツ 4：17)

ルツは がいこくのひと、モアブじんです。そのとうじ、ユダヤのひとたちからしたら かみさまからの しゅくふくを いただくことができないひとと されていました。また、モアブのくにとは ときどきけんかがあって、あまり なかよくありませんでした。

そんなモアブに いった アビメレクのかぞくは すべてのものを うしなってしまうました。こきょうの ベツレヘムにかえてきたのは アビメレクのおくさん ナオミと モアブでしんでしまった むすこの およめさん ルツだけでした。ふたりには なにもありませんでしたが、かみさまに すぎるころをもっていました。

かみさまは その ころを みてくださったのです。ふしぎなように ボアズの はたけに おちぼひろいに かけたことから、ルツは ボアズの およめさんになることができたの

です。

それだけではなく、ボアズとルツの あいだに うまれたオベドは、あのイスラエルのおうになった ダビデのちち である、エッサイのちちになったひとです。つまり、ルツはダビデのひいおばあさん になることができたのです。ということは、マタイによる ふくいんしよの さいしよにでてくる けいずでも わかるのですが、イエスさまに つながっていく、けいずになまえがのるひとになったわけです。ユダヤのひとたちは、このしゅくふくに おどろきました。

でも、がいこくのひとが、これほどのしゅくふくを うけることができたのはなぜでしょう。それは、「かみさまを信じます」ところはくしていたからでした。

わたしたちも、かみさまを信じていくなれば、どんな くるしいことがあっても、かみさまは あわれんでくださり、しゅくふくしてくださいます。ルツのものがたりは わたしたちに そのことを おしえようとしているのです。

●かんがえてみよう

☆ルツは だれの およめさんになりましたか。(ルツ 4:13)

☆ルツが うんだこは なんと なづけられましたか。そのひとは だれの おとうさんになりましたか。(ルツ 4:17)

☆マタイによるふくいんしよを よんで ルツの なまえを さがてみましょう。(マタイ 1:5)



なむむ聖書

もじ独

あいているマスに、右の9文字のどれかを入れます。タテ列（9列あります）、ヨコ列（9列あります）、太線で囲まれた3×3のブロック（それぞれ9マスあるブロックが9つあります）のどれにも9文字のいずれかがはいりませんが、文字が重なってはいけません。数独と同じ要領です。

いきがえらせるもの

る		か	せ	え			き	い
え	ら	き	の	る		せ	か	も
	も	い		き	ら		え	の
	い	る	き	か		も	の	せ
の	き		い		る	え	ら	か
	え							
き	せ		え			の		
も	る			い	き			え

ことばあそび

今週の聖書箇所の中に出てくる言葉です。それぞれを並び替えると意味が通る言葉になります。答えてください。

- ① にせたぬきやさん
- ② あめいるすよ
- ③ にむねだいく
- ④ いかとる

まちがいさがし

3つあるよ!さがしてね





牧師の 聖書 ななめ読み

「校歌」

今年の甲子園大会は午前と夕方に分けて試合を行っていました。いつも私は結果を確認する程度なのですが、ニュースを見ようと思い、テレビをつけると、ちょうど勝った聖隷クリストファー高校の校歌が流れていました。なんと、賛美歌!びっくりしました。調べると独自の校歌がなく、讃美歌393を用いているとのこと。「神の光は世の小道の暗き隅にも照り輝く 神をたたえて なす務めに高さ低きの隔てあらし」と甲子園に流れたわけです。浜松出

身の並木姉とも話が弾んだのですが、考えてみたら、すごい証しですよ。

以前、桜美林高校が初出場で優勝した時、「ああ オベリンナー もろ手をあげて イエス イエス イエスと イエス イエス イエスと 叫ぼうよ」との校歌が話題になりました。その時は横浜教会のバイブルキャンプを終え、帰路のバスの中で、見てはいなかったのですが、相手はPL教団のPL高校でしたから、結果をバスの中で聞いた時にはみんなで喜んだ記憶があります。

校歌は学校の顔、その生き方も注目されるでしょう。プロテスタント系、カトリック系の違いはありますが、キリスト教主義の学校が活躍してほしいと思います。

聖書ふれあい街歩き

●シャロン

シャロンを有名にしたのは、賛美歌だと思うのですが、その賛美歌の歌詞のもとになったのは「私はシャロンのばら、谷間の百合」(雅歌2:1)だと思います。ただ、以外にも旧約聖書にはこの地名はあまり出てきません。「花は咲き溢れ 大いに喜びの歌声を上げる。シバノンの栄光と カルメルとシャロンの輝きが砂漠に与えられる。人々は主の栄光と私たちの神の輝きを見る。」(イザヤ35:2)の他、あと4箇所にしき出てきません。新約では使徒9:35のみです。

このシャロンは北はカルメル山、南はヤツファあたりにかけて、東西は10キロ程度で広がる肥沃な平野を指し、マナセ部族の相続地にかぶります。昔から農業に非常に適した土地として知られ、特に牧草地や野花が豊富でした。

「シャロンのバラ」は、美しさだけでなく、バラの名産地であり、日本でいうと「新潟、富山のチューリップ」とか「長野のカーネーション」のような感じでしょうか。ただ、「バラ」といっても、現在のバラとは別な花であることが分かっています。ユリ説、アネモネ説、クロッカス説などがあり、はっきりしていません。

いずれにせよ、現代でもシャロン平原は、当時と変わらず、農地が広がっています。

ななめ聖書 先週のこたえ

る	お	り	う	ち	に	む	ぎ	ば
に	ぎ	む	ば	り	お	ち	る	う
ち	う	ば	ぎ	む	る	に	お	り
む	り	る	ち	う	ぎ	ば	に	お
ば	ち	う	に	お	り	ぎ	む	る
お	に	ぎ	む	る	ば	う	り	ち
ぎ	む	お	る	ば	ち	り	う	に
う	る	ち	り	に	む	お	ば	ぎ
り	ば	に	お	ぎ	う	る	ち	む

- ① きんしんのもの
- ② いっしょに
- ③ はからずも
- ④ たちどおし

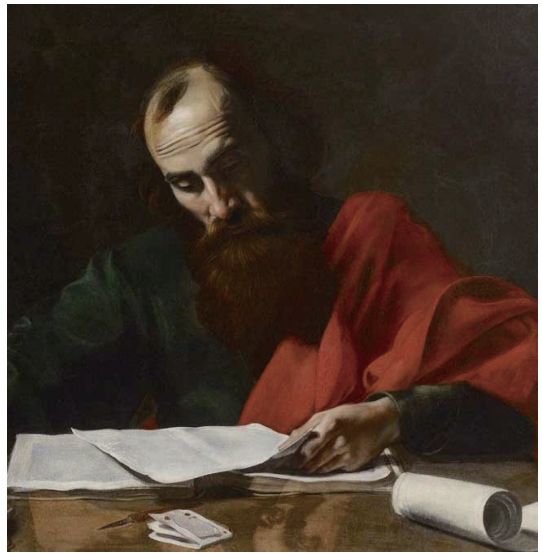


エフェソでのパウロ

このようなことがあった後、パウロは、マケドニア州とアカイア州を通りエルサレムに行こうと決心し、「私はそこに行った後、ローマも見なくてはならない」と言った。

そして、自分に仕えている者の中から、テモテとエラストの二人をマケドニア州に送り出し、彼自身はしばらくアジア州にとどまっていた。

(使徒言行録19:21～22)



手紙を書くパウロ

【パウロの決心】

パウロはエフェソに滞在中のある日、自分のこれからの巡回伝道計画を弟子たちに語りました。これからフィリピヤやテサロニケがあるマケドニア州、そしてコリントがあるアカイア州を巡った後にエルサレムに行き、報告などを終え、使徒たちとの情報交換を済ませてからローマに行こうというのです。

パウロがローマに行きたがっていたことは誰もが知っていたところです。それを公な場所で言ったため、ここにルカが記したのだと思います。そして、その後文字通り進められていきました。

そのために先発隊として派遣されたのがテモテとエラストでした。

【テモテとエラスト】

さて、彼らはいつからパウロと合流していたのでしょうか。これまでの一行の動きを振り返ってみましょう。

パウロがコリントにいた時、シラスとテモテがマケドニア州での役割を終えて合流します(18:5)。しばらくして、プリスキラとアキラを連れてコリントからシリア州に向かいました(18:18)。ケンクレアイではまだテモテがそばにいたと考えられますが、エフェソに到着した時にはプリスキラとアキラ夫妻だけであったように受け取れます。そして、エフェソからカイサリアに到着し、エルサレムを訪問してからアンティオキアに戻ります。

パウロはしばらくアンティオキアで過ごすわけですが、まず第一の可能性としては、テモテがアンティオキアに戻ったか、戻るのを待って宣教旅行に出発したとの見方です。これは、書簡にも記

されているように、パウロは心身共に支える立場としてのテモテに頼っていました。パウロの先に行ったり、後処理をしたりとパウロの手足となって動いていましたので、宣教旅行の同行者には欠かせないと考えていたと思われるからです。

第二の可能性として、パウロはテモテにエフェソで待つように告げていて、そこで合流したとの見方です。テモテへの手紙でもわかるように、テパウロはモテにエフェソの教会を任せていました。「私がマケドニアに行くときに頼んでいたとおり、あなたはエフェソにとどまって…教えを説いたり…命じなさい」(テモテ1:3)は、この直後のことだと思われます。となると、パウロにはエフェソをテモテに任せようという頭があった、そのため、拠点となるべきエフェソであらかじめ活動させており、そこにパウロが合流したと考えるものです。私は後者を取ろうと思います。

一方、エラストですが、ローマ16:23に出てくるローマ「市の会計官エラスト」と同一人物であるなら、この会計官を退職してパウロの宣教に加わっていなければならず、「元市の会計官」と言うべき立場だったかもしれません。ローマの信徒への手紙は57年頃パウロがコリントにいた際に書かれたと言われているので、この時点でエラストはパウロと共にコリントにいたのでしょう。また、テモテへの手紙2:4:19以降を見ると、テモテはプリスカとアキラと共にエフェソにいたことがわかりますが、エラストは「コリントにとどまりました」とあるように、一旦テモテとマケドニア州に行き、パウロ合流後、パウロに連れられてアカイア州コリントに来、そのまま教会を任されたのではないのでしょうか。

キリスト教まるわかり Q&A

◆何もわからないのですが。

必要なものはお貸しし、一つずつお教えいたします。また信仰の強要はいたしません。

◆礼拝とは何ですか。

私たちの悩みは神から離れていることに原因があります。礼拝で神を賛美し、祈り、御言葉を聞くことにより、人間のあるべき姿を取り戻していく、それが礼拝です。

◆献金とは何ですか。

神への献身を表すもので、お布施や聴講料、会費ではありません。本人の意志に任されており、あくまでも自由です。趣旨のわからない方はなさらなくても問題ありません。

◆聖餐式とは何ですか。

信仰告白をし、洗礼(バプテスマ)を受けておられる方のみになりますが、主イエスと共に生きていることを確認する儀式で、聖別された

パンとぶどう液をいただきます。

◆信者になるにはどうしたらいいですか。

自分の意志で主イエスの福音を信じ、洗礼を受けることにより教会員(信者)と呼ばれます。

◆キリスト教会は様々な教派があります。

大きく分けてカトリック教会とプロテスタント教会があります。プロテスタント教会は、設立された時代や地域、歴史的な背景によって成立が異なるため、多くの教派がありますが、憎み合っているのではなく、互いの特色を認め合い、助け合っています。

◆にせのキリスト教会がありますか。

キリスト教の枠組みからずれている教えについて、私たちは異端と呼んでいます。代表的な団体には「エホバの証人」「モルモン教会」「世界平和統一家庭連合」などがあります。特に韓国系キリスト教活動にはお気をつけください。お困りの方は牧師までご相談ください。

2025年教会暦・年間行事

(#はその年によって変動します)

「教会暦」はキリストの生涯をたどりながら1年を過ごすために作られました。当教会では教会暦に、継承されてきた伝統的記念日に加え、守っています。

顕現節(1/6～#3/4)

降誕日(12/25)から12日後に東方の博士がキリストを礼拝した顕現日(1/6)から始まります。降誕されたキリストが世界の救い主であることを覚えて過ごします。顕現節の最終主日は受難の整えをされた変貌のできごとを覚え、変容主日(#3/2)として守ります。

四旬節(#3/5～#4/12)

前年に使用したしゅろの枝を灰にしてかぶり悔い改めを表した儀式(この教会では行いません)、灰の水曜日(#3/5)から始まります。レントとも呼び、主日を除いた復活日前日までの40日間、キリストの受難を覚えて過ごします。

四旬節に続く受難週(#4/13～4/19)は、主イエスの最後の1週間を覚える週で、エルサレム入城に際し、しゅろの枝を用いて歓迎したしゅろの主日(#4/13)から始まり、洗足と主の晩餐が行われた木曜日(#4/17)、十字架にかかれた受難日(#4/18)と過ごしていきます。

復活節(#4/20～#6/7)

キリストが死にかけて復活されたことを祝うイースター(復活日・#4/20)から始まります。春分の日後の最初の満月の次に来る日曜日と定められているので、祝日が毎年変動します。40日後のキリストの昇天(#5/29)を迎えたのち、復活節の最終主日(昇天主日#6/1)となります。

聖霊降臨節(#6/8～#11/29)

復活日から50日目、聖霊が使徒たちに降ったことを記念する聖霊降臨日(ペンテコステ・#6/8)から始

まり、三位一体主日(#6/15)では父、御子、御霊の働きを告白し、過ごします。最も長い節期となります。

待降節(#11/30～12/24)

救い主キリストの誕生を祝う備えをしながら、待ち望むアドベント(待降節)は、11月30日に一番近い主日から始まります。降誕を祝うクリスマスは12月25日ですが、クリスマス礼拝(#12/21)は、25日以前の日曜日を選んでをささげています。

降誕節(12/25～1/5)

イエス・キリストの誕生を祝う日(12/25)から始まり、顕現日前日までの期間を指します。

【記念日】

母の日(5/11・5月第二)
ウェスレー回心記念日(5/24・1738年)
花の日(子どもの日・6/8・6月第二)
父の日(6/15・6月第三)
ホーリネス弾圧記念日(6/26・1942年)
宗教改革記念日(10/31・1517年)
収穫感謝日(11/23・11月第四)

【当教会行事】

新年元旦礼拝(1月1日・水)
成人祝福礼拝(#1/14・1月第二)
聖書愛読週間(#3/23～29)
みふみの日(3月23日)
教会創立記念礼拝(3月最終主日/創立記念日3/27)
最後の晩餐集会(#4月17日夕)
召天者記念合同礼拝(#6/1・6月第二*今年は第一)
弾圧記念礼拝(#6月22日・26日前後の主日)
石出忠師記念礼拝(#7月6日・7月第一)
敬老祝福礼拝(#9/14・9月第三)
子ども祝福礼拝(#11/2・11月第一)
クリスマスイブ礼拝(12月24日夕・水)

教会紹介

●歴史

私たちの教会は、ジョン・ウェスレーを源流とするメソジスト(青山学院、東北学院など)の信仰を継承しており、メソジストの教職であった中田重治が1901年に創立したホーリネス教会の信仰を受け継いでいます。2022年3月27日に創立いたしました。

●教義

旧新約聖書66巻を誤りない神の言と信じ、唯一の正典として信仰生活の規範にしています。また三位一体の神を信じ、イエス・キリストによる以外に救いがないことを告白しています。特色は、下記に紹介する四重の福音を強調していることです。

【四重の福音】

四重の福音は、長老教会の牧師A. B. シンプソンが提唱したものを、ホーリネス教会の創設者中田重治が自らの信仰に基づいた理解を加え、福音宣教の際に掲げた教えです。

人間の幸せは神と共に生きることで実現するのですが、神を認めず生きているため、むなしく日を過ごしているのが現実です。しかし、イエス・キリストが十字架によって神と人との絆を回復してくださったのです。これが福音です。この福音を信じることで、人間は本来もっていた真の幸いを覚えながら、充実した人生を送れるのです。

中田は、聖書に書かれてあるこの福音をわかりやすく語るべく、前述の提唱にある新生、聖化、神癒(しんゆ)、再臨(さいりん)の4項目に基づいて、以下のようにまとめました。

◆**新生** キリストの十字架と復活を信じ、新しく生まれ変わる。これにより、天に住まう者のように、日々喜びが与えられる。(コリントの信徒への手紙2:5:17など)

◆**聖化** 神に属する者であるとの自覚が与えられたことで、自己中心に生きていた心が砕かれ、同時に神中心の生活を求め始め、神のきよさに近づくこと。(ガラテヤの信徒への手紙2:19～20など)

◆**神癒(しんゆ)** 肉体を持っているがゆえに弱る私たちが、神のあわれみにより、病い、そして死の恐怖にも打ち勝つ力が与えられ、苦しみから解放されること。(出エジプト記15:26など)

◆**再臨(栄化)** キリストが再び地上に来られること。その時、死んだ聖徒たちは復活し、生ける信徒は死を経験せずに天に挙げられる。(コリントの信徒への手紙1:15:51など)

教会の信条

さがみはら きょうかい いか しんじょう かか
相模原ホーリネス教会は以下を信条として掲げています。

わたし
私たちはイエス・キリストを救い主として信じています。

しゅ
主イエスは、「神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」と宣言されてから約3年間、人とびとを救い、人々にその教えとみわざを通して神の国の恵みを明らかにされ、そののち、私たちの罪を負って、十字架にかかれ、あがないを成し遂げ、神の国にはいる救いの道を開かれました。

この主イエスの救いへの招きに応じて神の国に属して生きる者となった私たちは、聖書が示しているこの時代に、使命を全うすべく、「あなたこそ生ける神の子キリストです」と信仰告白した者たちと共に、神の国の鍵を与えられた教会の一員とされたことを覚えながら、聖霊の助けによって以下のことを宣証しつつ歩みます。

- ①キリストによる完全な救い
- ②真心からささげる礼拝
- ③キリストをかしらとした教会の交わり
- ④神の憐れみによるいやしと慰め
- ⑤信仰生活がもたらす祝福
- ⑥世界にも目を向けたとりなしの祈り
- ⑦神の愛に基づく社会への貢献

MEMO

単立 相模原ホーリネス教会

創立 2022年3月27日

主任牧師 土屋 和彦 牧師 石出 佳代子 牧師 土屋 淳子

252-0205 相模原市中央区小山 3-31-3

TEL&FAX 042(772)8910 e-mail church@bethels.info

ホームページ <http://www.bethels.info/>

